



講義

「伝統を未来へつなげる

-医療の立場から-

渡辺賢治

慶應義塾大学医学部漢方医学センター診療部長、
准教授

伝統医学は世界各地域に伝承されたものである。古代中国に発した医学は中医学として伝わるが、この1500年の間、韓国で韓医学、日本で漢方医学としてお互い似て非なるものとして発展してきた。20世紀以降、西洋医学が世界の標準医療として普及しているが、近年になって再び伝統医学が見直されている。特に欧米において注目され、生薬に対する需要が伸びているため、限られた資源の争奪戦が始まっている。すなわち2000年間アジア地域の医学を担ってきた伝統医学がグローバル化の中で逆に存亡の危機に立たされているのである。人にやさしい医学として発展してきた伝統医学を持続可能にするためにはどうすべきか、今こそ人智が問われている。

グループ対話

講義の理解をより深めるために受講生同士で意見を交換し合う時間です。

受講生レポートから(一部抜粋)

「漢方について考えると共に、ここでもつながれている3か国(日中韓)を発見した」

「医学も含めて文化などの伝統を継承するために計画的な教育や支援が必要だと思います」

「これから甘草の栽培方法を研究して、漢方が続くようにする」

「伝統を守るには従事者が必要。国がもっと伝統産業を重視し、名誉を与えて励ますだけでなく、物質的奨励、給料なども考えなければならない」

